

第9回 鎌倉市観光基本計画進行管理委員会 会議録

日 時：平成22年10月4日(月)9:30～11:30

会 場：鎌倉市役所 第1委員会室

出席委員：古谷委員長 鷺尾委員 藤川委員 久能委員 アルバレス委員

出席職員：小磯市民経済部長 梅澤市民経済部次長 鶴見観光課長 菅原係長 小林係長 渡邊主事

傍聴者：なし

- 議事の概要：1. 開会あいさつ
2. 審議事項
平成21年度実績概要等について
3. その他
4. 閉会あいさつ

※会議録は要点筆記とする。

1. 開会あいさつ

観光課長) 出席委員を確認し、委員に市民経済部長を紹介。

市民経済部長) 今年4月の人事異動による着任を報告し、挨拶。

2. 審議事項

委員長：

本日は、前回の委員会に引き続き、21年度の実績評価についての審議をお願いします。事務局から資料の説明をお願いします。

事務局：

配布資料「21年度実績に対する評価」を読み上げて説明。

委員長：

今の説明について審議をお願いします。

委員：

手元に前回の会議録がないので、前回の会議内容を要点だけでも確認願いたい。

事務局：

前回、委員長から3つの視点から進行管理状況報告書をまとめてみてはどうかのお話があった。①成熟した鎌倉として今後どのような観光地を目指していくか、②第2期鎌倉市観光基本計画が5年目であり中間的評価が必要である、③ここ1,2年の新しい動きをまとめとして紹介いくという3点である。さらに観光基本計画の見直しと振興推進体制の見直しについても言及され、体制の見直しは今後継続して行っていくことで、今回は実績評価をするということであった。

委員長：

資料の2ページの文章の冒頭に日本の観光を取り巻く状況を述べてはどうか。具体的に言うと、ビジットジャパンで国をあげて観光を推進してきたが、リーマンショックなどで鎌倉の取り組みだけではどうすることもできなかった要因をあげて、それから新しい取り組みを記載していく。そのあと継続して行った取り組みも記載する。

委員：

資料5ページの最後にある振興推進体制の見直しを、委員会の意思表示としてこの評価に書いてどうか。6「観光需要の平準化」、7「優先順位と横断的な取り組み」、8「第2期観光振興推進本部の推進体制の見直し」の各項目にはだれがという主語が必要ではないか。

委員長：

主語は鎌倉市です。全体は21年度実績だが、その中に5年間に対する評価が混在している。分けて記載したほうが良い。アクションプランの目標も5年間と分けて記載するなら目標3・イ)で見直しを述べてもよい。細かいところでは、目標1・ア)の鎌倉検定の1級合格者の記載は観光振興に繋げていくというような記載が良いと思う。資料5ページの6「観光需要の平準化」は、どの時期かどの場所かを記載したほうが良い。目標1・エ)についても民間やNPOの情報発信も鎌倉の観光の強みになっていることなどを記載する。目標2・イ)の案内板についてはやり残したところがあれば、それを課題として記載する。目標3・ア)の周辺観光地との広域的連携を実施したことは評価できる。どこと連携したのか具体的に記載する。

委員：

評価で良くできたことはたくさん書いてあるが、良くできなかったことをはっきり書くべきではないか。

委員長：

この場で改善すべき課題をあげていきたい。

委員：

「望まれる」と「望ましい」の区別はあるのか。資料3ページの鎌倉検定については「活用が望まれる」とある。表現の強弱があるなら「特に望まれる」と「望まれる」などの方が良いのでは。

【3】・今後に向けての課題・提言に、優先順位があればそれも記載したほうが良い。予算のかかることやすぐにできること、予算も時間もかかることなどで分けて、最後に特に〇〇と△△は力を入れたいと言ったほうが読む人に訴えてくる。

委員長：

文末はいろいろなしめ方をしているが、何か意味をもっているか。

事務局：

特にない。

委員：

5年間と1年間の評価、目標がはっきり分かれていない。それぞれ分けるべきである。

委員：

本部会議の事務局としての観光課、評価する立場の観光課という二重の立場があるためにこういう書き方になってしまう。そこを厳しく見て評価すべきだと思う。今の意見のように分けるべきだ。

委員長：

確かに分けなければならない。

委員：

最初の文章についてもきちんと分けるべきであり、年度の経済状況を触れる部分も必要である。さらに少し踏み込んで書くために、目標3・ア)に横浜と連携したことなどを具体的に書くことで次につながるが出てくる。そのことが滞在時間等の延長などに活かされるかどうかといった、今後の課題についても記載したほうが良い。目標2・イ)で外国語パンフレットを増刷したことを書けば、今の配布場所で足りるのか、配布方法は改善するのかなどにつながり、今後生きてくる。

委員長：

皆さんの意見は共通している。望まれるという語尾の修正、できたことと改善すべき課題を書くことになる。鎌倉検定のところも合格者のネットワークの活用が課題であるとか。市民・観光客の参加意識が持てる行事の継続が課題であることを書いてはどうか。

事務局：

観光課で個別評価をつくったが、他の団体で行っている鎌倉検定やパンフレットの配布、他市との連携については、観光協会を含めて連携を行っているが、こうすべきだということは書きづらい。どうしても望まれるや期待されるなどの表現になってしまう。

委員長：

この評価を受けるのは市である。主語は市で始まる書き方にすべきである。鎌倉検定やパンフレットの作成は(将来的に)市が行うのではなく、それをできるような体制をつくって橋渡しすべきである。それが実現するように我々が問題を指摘し、市が率先してアクションを起こし、具体的な人々にバトンタッチすれば良い。市が全部できないと考える必要はない。事実を記載すべきである。

委員：

主語として鎌倉市の他に観光協会は出てくるが、他の団体が出てこない。観光に携わるのは他にもたくさんある。もう少し踏み込んで主体を明らかにして記載していくほうが良い、今後の5年間であまり動かなかつたら困る。市民グループがまちをきれいにしていることなども明らかにしてほしい。

委員長：

商工会議所が実施しているかまくら推奨品なども主体を記載し、評価するとともに課題を書くようにすると良い。歩く観光や自転車もすぐにはできないので、安全安心部会などのことを含めて書くと良い。

委員：

個人で町をきれいしている人など、市民の活動評価をすべきである。

委員：

観光協会にたくさんの期待が寄せられる。(観光協会は) 予算の削減があり、みんなで神輿を担いでいることを書く必要はないか。協会はみんなボランティアで手伝っているが、追いつかない状態である。記載する必要はないか。様々な主体とテーブルを持ちたい。

委員長：

今の経済状態では、市も協会も他の団体も予算の確保は難しい状態である。目標3・ア) でその状態で頑張っていることを記載するかどうかである。

委員：市はきっかけ作りを行う。それぞれの項目に関わってもらいたい主体の名前が出ると良い。

委員長：

各観光実施主体は、財源確保に問題があり改善の必要があるなどと【1】・「21年度実績に対する評価」で記載しても良い。多くの公金の投入より、民間の知恵を活用することが鎌倉の観光にとって良いとわかる記載なら良い。

委員：

モチベーションが上がるように書く。滞在時間の延長では、夜間の取り組みとして3年くらい継続して長谷寺、高德院がライトアップを行い、鶴岡八幡宮も新しいイベントを実施している。良い兆しが見えているというような書き方をしてほしい。

委員長：

宿泊客の増加は難しいが滞在時間の延長についてはそのように記載しても良いのではないかと。それぞれがまだ単発であるので一体的な取り組みについては課題であると記載しても良い。【2】・アクションプランに対する個別評価は、取り組み主体を具体的に書き、望ましいという言葉で終わるのでなく、できたこととできなかったものを記載したほうが良い。

【3】・今後に向けての課題・提言についてはどうか。今までの評価を踏まえて書くべきであると思うが。

委員：

大学生は7月が夏休みでなく、8・9月が休み。行事の組み方を変えれば、平準化につながる。若い人の時間を9月の観光イベントに取り込んだらどうか。若い人のパワーをターゲットに、身近な観光地鎌倉ができれば良いと思う。

委員長：

確かに9月の閑散期に学生を観光客として、さらにまちづくりの担い手としても良い。若者は自己実現や就活に役立つようなメリットがないとお金を払う観光をしない。若者にアプローチする際の課題を提言のところに記載してもよいのではないかと。市民が実施したとタイアップできれば相乗効果もある。

がる。

委員：

観光の定義、考え方は流動的で刻々と変化している。新しい共通認識がないと若者の観光離れということになってしまう。

委員長：

観光の定義が変化していることを、鎌倉市も認識すべきだと、【1】・21年度実績に対する評価に記載し、次の5年間に活かしていくことを記載することも必要である。

委員：

いくつかの観光コースを設定し、タイムリーに鎌倉検定の合格者を投入していくのも良いのではないか。

委員：

2, 3の寺に絞って案内人を張り付ける話は出ている。スルーガイドでなくポイントガイドとして、京都にいるようなお寺の新しいガイドとしてコンシェルジュを育成しようという話はある。

委員長：

鎌倉検定の合格者を活用して、既存の観光資源を深掘りできるような取り組みをすることが望ましい。

委員：

鎌倉は来やすいので、また来たいという気持ちにすることに力を注ぐべきである。

委員：

十三仏めぐりに参加して、観光客の質問も専門的で、深い知識を求めている人が多い。大船や玉縄を入れたコース設定もできるのではないか。

委員：

十三仏めぐりに似た企画を北鎌倉から鎌倉で実施したら、定員の1.5倍の応募があった。「僧侶が案内する寺の中」としてガイドでなく僧侶が説明するものであった。

委員：

そうした企画を閑散期にやればいい。学生割引などがあればなお良い。

委員：

9月に実施するのも良い。普段見られない秘仏が見られるのが魅力になるのではないか。

委員長：

課題では具体的に深掘りをするのと、既存の取り組みでは、面的に展開していくことを記載する。

委員：

それは【2】目標1・イ)の平日、閑散期の来訪者の偏りの改善につながる。それは参加意識の持てる行事の継続にもつながっていく。観光客や学生も含めた新しいものを考えられる。

委員長：

課題提言がどこの評価の改善につながっているか、記載したほうが良い。地方の観光地では中・高校生が案内する企画も人気がある。都会に出ても学生の時に案内した記憶があって地元意識ができる。鎌倉でもできると思う。5ページの4「情報共有と情報発信の強化」は、パンフレットの配布の仕方、使われ方を含めて、検討ではなくもう少し具体的に書き換えてもらったほうが良い。

5「観光を横串とした地域連携の体制作り」もイベントだけでなく、連携の場作りは市でやることを記載する。6「観光需要の平準化」は、9月、夜、朝、その他の季節を具体的にどうするかを記載する。

委員：

若者をたまたま例にとったが、来てくれる年齢層に合わせて観光地側で何をするかだ。学生なら9月、主婦なら昼など、ターゲットと時間・時期がクロスすることをやるべきだ。

委員：

個別検討部会は年間どれくらい開かれているのか。

事務局：

年2～3回、テーマに応じて開催している。

委員長：

個別検討部会の効率化についても、8「第2期鎌倉市観光基本計画の推進体制の見直し」で記載してもよい。

委員：

市以外に横断的にできる事務局が必要だということを8の部分に含めることができるのか。例えば、薪能にプレ観光をセットできれば深掘りになって良いが、どこにもっていけばよいか。

委員：

ボランティアでは限界があり、インバウンドの旅行業者を育てて、そこが担うべきだろう。

委員長：

本当は副委員長みたいな人がディレクターになって行うのがよいと思うが、どこがまわしていくかの結論はすぐには出せない。今後、次回かその次くらいの委員会で検討したい。

委員：

重要であるというより、提案するくらいの言い方をここではしておきたい。

委員長：

8については機能的に動ける体制にしていくことが大切で、来年から実施していきたい。

委員：

話が変わるが、海老名のよさこいに関わっている。今年で9年目であるが、中弛みしてきたので、外部の目を入れるということになり、私が入った。その会議に私がいるだけで緊張が生まれ、きちんと議論ができるようになったと言われた。外部の目が入る委員会になっていけば、緊張感が生まれるのではないか。

委員長：

これまでこういう組織にしたいと意見があったが、その辺を踏み込んで記載すれば良いのではないか。

事務局：

我々もこの組織を実施してきて、本部会議は情報の共有にはなるが、各団体の代表者の合議制でスピード感がなくなった、これが一番大きな問題であると感じている。先日も議論いただいているが、事務局としては、本部会議のあり方を検討していただきたいと思っている。スピードがないと変化する観光に対応できなくなる。委員の方に議論をいただけるとありがたい。

委員長：

当初、個別検討部会を作り、本部会議が動かす仕組みを考えた時は、スピード感を失うとは考えず、スムーズに進むと考えていた。事務局が議題をつくって、期限までに検討を行っていかないと進まない。それを事務局ができないのならば改組するしかない。本来は部長がリーダーシップを発揮していくのが望ましい。それが難しいならば別のところで行うか、外から人を取ってきて動かす仕組みを考えなければならない。

事務局：

推進本部会議を作って進めていくなかで、市が様々な団体の観光の成果を独り占めするために本部会議をつくったという意見を言う人もいた。我々は、様々な主体の様々な活動を進行管理委員会の委員の人たちに評価してもらい、鎌倉の観光を一体的なものとするために本部会議をつくったと考えている。市が主導する部分は主導していきたいが、民間が主導した方が良いものもあると思う。5ページ8の「各主体が自主性を持ち」という部分がわかりづらいならば、変更していきたい。委員の意見をお伺いしたい。

委員長：

観光協会でも新しい組織を作っても、回っていくかどうか。

事務局：

新しい組織は考えていない。今の本部を情報共有機関にして、個別の事業の決定はそれぞれの主体で決定することでよいと考えている。イメージ的には民間でできるものは民間で、行政で行うものは行政で行う。その区分けのなかで情報を共有し、一つの方角へ持っていくのが良いと考えている。本部会議が行政を含んだ鎌倉の観光の方角性を決めていくことは荷が重いと思う。委員の方の提言を我々はまとめていきたいと考えている。

具体的に明記するかどうかだが、推進体制の見直しについては、本部会議で話題になったことはない。今度11月に予定している本部会議で、問題があるので見直しが必要ということを進捗管理委員会から提言していただき、本部会議の了承を得て、後日、進行管理委員会を開いて体制を検討していただければ

ばと考えている。

委員長：

分かりました。ワンクッション置いた方が良いということですね。時期的には、いつごろですか。

事務局：

少し検討する期間をいただき、進行管理委員会の開催後、今年度中に本部会議を開き、来年度から新しい体制で行いたい。

委員：

我々と事務局は長い間テーブルを囲んでいるので、これならうまくいきそうな体制のイメージを共有していかないと、記載するかしないかは別にして、前回もここで長い時間を割いた。今日この体制の話を行うのか。

委員長：

本日は、その他の部分でご意見がなければ、このあとに続く部分ですので、議論したいと思う。7「優先順位と横断的な取り組み」では、箱根など近隣都市と連携を行っているのだし、前から藤沢と連携していることを記載したほうが良い。

事務局：

藤沢とは今年の7月から都市連携を始め、テーマの一つに観光の連携が入っている。今までの協議会からより密接に一步一步進めていきたい。

委員長：

それは一対一のもので、いくつもの市と連携し、面になってはいないのか。

事務局：

広域連携としては、藤沢市・鎌倉市・神奈川県観光協会・藤沢鎌倉の両観光協会・江ノ電で構成される鎌倉藤沢観光協議会がある。その他湘南地区の行政でつくっている湘南地区観光振興協議会があり、活動としては県外で誘客キャンペーンを実施している。それぞれの協議会でパンフレット等を作成している。また、今年から横浜・川崎・鎌倉・横須賀・藤沢の各市と観光協会が近隣都市観光事業連絡会を開催しお互いに協力できることはないか協議を行っている。

委員長：

記載できるものは記載したほうがよい。

委員：

7について広域連携は良いことだが、実際には近隣の市町村が観光振興にどのようなことをしているか共有できていないと思う。近隣市町村がどのように観光振興を考え、取り組みを行っているか調べて、連携できることがあるか知るべきだ。そのうえで広域連携を行うべきである。それが情報共有であり、4の「ワンストップの仕組みづくり」であり、いろいろなところに関わってくる最後の8の項目にも関係してくる。

委員：

ワンストップと言えば、逗子の音霊(おとだま)、スペースシャワーのライブを見る前に鎌倉で食事をしたり、観光をする人がいる。例えば情報機関や観光ディレクターがその観光情報を嗅ぎ付けてホームページ上にリンクを貼るなど、お互いのイベント情報をすぐに得られる仕掛けをするだけでお金をかけずに観光振興につながる。小田急で江ノフェスなども行っているが、その情報が鎌倉市観光協会のホームページにリンクしていると効果的である。

委員長：

整理すると、広域連携は活動が期待されるなどと記載しないで、実際に行っていることを書き、引き続き実行していくとしたほうがよい。

事務局：

藤沢市との連携については、鎌倉の観光客1800万人、藤沢が1200万人位でその差が歴然としている。連携する効果は藤沢市の方が鎌倉市より大きい。連携をどこまで追求して行うか事務局としては難しい。

委員長：

実際に江ノ電も入れた協議会を行っているのでその部分を記載すれば良いことだ。

委員：

【1】の評価のところだが、5年前に基本計画ができて評価してきたことは分かるが、5年経って鎌倉市が何を考えているのか読み取れない。

委員長：

これは我々が鎌倉市に対する評価になる。本部会議で市長の観光に対する考えが我々に示されれば良い。

事務局：

その部分は観光基本計画が今年度から来年度にかけて見直すことになっている。まずは提言をいただき、組織を見直した後、来年度に基本計画の見直しを行っていきたい。また、評価については、委員長が言うように、今年については、分かりにくいので年度のまとめの他に5年分のまとめを記載することにする。

委員長：

【4】を新しく設けて、5年間を振り返った記載をした方がよい。他になければ推進体制についてあと10分位あるので議論したい。個別検討部会を部会にしたのが失敗だったと思う。情報収集を行うタスクフォースを作り、集めたら直ぐに解散する。推進本部は市長が責任を持つのは重いので、そこはコミュニケーションをする場でネゴシエーションの場ではない。スピーディーに進めるうえで別に組織を作る必要がある。受け皿となる組織が今はなくて、事務局が苦勞している。我々がチェックをあげても誰も受け取る場所がないので、そこを含めて改組するべきではないか。本委員会の提言を受けるのは、本部会議でも個別検討委員会でもなく、その間にある組織だと思う。

委員：

京都には、JR、ホテル、いろいろな組合の長が入っている。次の年やその次の年のことをコミュニケーションしていく場を毎月開催している。それくらいしないと機動力を持たないと、サービスを受ける立場のニーズは把握できない。

委員長：

市の予算に施策を反映するスケジュールを考えると、新しい観光施策を9月議会に報告できるような委員会にしたほうがよい。事務局は市が行うにしても、観光施策を作っていく委員会を開催し、今年度、来年度については、情報収集のタスクフォースをつくり、委員会に情報をあげて、次に5年間の施策を改善していくようにする。

事務局：

その委員会については、事務局ではっきりとイメージができないが、市の観光基本計画であるので市が担当することになる。進行管理委員会とは別に、委員会があってもよいと思う。しかし、その決定を得なければ実行できないとなると、今と同じになってしまう。諮問・答申のような意見をいただく機関とし、進行管理状況評価については市が受けるのがよいと思う。それぞれの主体については、本部会議でもよいが、そのなかで情報を共有し、一定の方向性を示していけばスピーディーな動きができると思う。

委員：

個別検討部会の中身を変えるのか。

委員長：

個別検討部会は短期的に解決すべき課題についてのタスクフォースとして、その役目が終了したら解散して良いと思う。

委員：

個別検討部会、本部会議、進行管理委員会を同列にするということか。

委員長：

進行管理委員会の提言に対し、アクションを受けるところが必要で、そこが機能していないのでそこをつくるということ。個別検討部会はタスクフォースとしてミッションが終われば解散する。本部会議は市長を含めて情報共有の場にしていく。マスタープラン（観光基本計画）は市のものなので、事務局が効率的に進められる組織をつくっていく。

委員：

以前の会議で個別検討部会が行っていない議題は、どこも検討していないとの話があったが、ミッションが終了したら解散できるということなら、新しいミッションが出てきたら、それを依頼する組織が必要になってくる。

委員長：

最初は進行管理委員会がつくったが、推進本部会議が機能しなかったため、その後がなかった。そのために組織をつくる。タスクフォースを作れる機能をもつのが次の委員会である。

委員：

京都のように月一回あって身近なことを話すことも大切である。

委員長：

それで充分であると思う。何か決めるとなると荷が重くなる。個別検討部会のように動きが鈍くなる。

委員：

議会に提出する施策にまでしなくても、中で解決することもできる。例えば花火大会のチケットが売れてなければ、月1回集まればそれぞれの団体が協力することができる。

委員：

それと1、2年先のプランの方向付けを行う。

委員長：

鎌倉の観光は誰が動かしているのかの根幹にかかわる。情報を集めるところが毎月のように機能してくれようまくいくし、方向付けるところは限られたメンバーになる。イメージはこんな感じでよいか。

事務局：

今年、県の観光基本計画が策定され、それに基づく連絡会議を参考に考えると、県の振興計画に基づく県の施策をみんなに周知し、各主体の実施する事業結果をその会議に報告する。県で観光振興に顕著な功績をした方の表彰などを行っている。連絡会議の出席者は、各主体の長と固定していない。本市のような最高の意思決定機関ではなく、情報交換の場となっている。本部会議はそのような機関にしていきたい。大きな問題があったときは、県の観光審議会で議論している。

委員長：

我々も作ったときは、審議会のような委員会であった。観光基本計画を策定した時のような委員会をつくれれば動くと思う。漠然としたところはあるが、大まかなところはこのような感じでよいか。委員長・副委員長に評価案の細かなところをお任せいただいてよいか。その他事務局から何かありますか。

3. その他

事務局：

11月17日（水）に観光振興推進本部の会議を開催の予定で、当日は進行管理委員会から副委員長がご出席いただく予定です。本日の意見を参考に評価報告書を修正し、委員長・副委員長に確認していただきます。ご意見が言えなかった部分があれば、事務局までお願いします。欠席の委員についても同じように意見をいただく予定です。

委員長：

報告は事務局ではなく、副委員長に報告してもらってください。進行管理委員会はもう1回開催しま

すか。

事務局：

年度内にもう一度進行管理委員会を開催いただき、体制の見直しについての報告文まで作成していただきたいと思う。その後、3月に本部会議を開催したいと思う。

4. 閉会のあいさつ

委員長：

本日はこれで終了します。